



平成29年7月25日
国立研究開発法人土木研究所

「福岡県朝倉市の筑後川支川6流域内における堆積流木と流木発生域の分布図」の公表について

国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 火山・土石流チームでは、福岡県朝倉市内の6流域内（妙見川、奈良ヶ谷川、北川、寒水川、白木谷川、赤谷川）において、平成29年7月九州北部豪雨後の堆積流木と流木発生域を空中写真から判読し、分布図を作成しました（別紙）。災害後の応急・復旧対応を実施されている機関に対し判読図（速報）の提供を目的として公表します。

1. 判読条件

- ・国土地理院および各航測会社が災害後に撮影した空中写真を用いて流木の堆積範囲を判読し、地図に示しました。
- ・流木が堆積した範囲は、流木量の概数に応じて4区分し、色分けして表示しています。
- ・推定流木発生域は、崩壊範囲のうち崩壊前に樹木が分布していたと推定される範囲を表示した。
- ・判読に用いた空中写真は、平成29年7月7日～13日に撮影されたものです。そのため、現時点の流木の堆積状況と異なる可能性があります。

2. 判読に用いた写真等

- ・国土地理院：http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/H29hukuoka_ooita-heavyrain.html
- ・アジア航測株式会社：<http://www.ajiko.co.jp/article/detail/ID5BC05HHKP/>
- ・国際航業株式会社：
http://www.kkc.co.jp/service/bousai/csr/disaster/201707_north_kyushu/index.html
- ・株式会社パスコ：http://www.pasco.co.jp/disaster_info/20170708/

3. 判読図から読み取れる特徴

- ・各溪流においては、下流域のみならず上流域でも、多くの流木の堆積が確認された。
- ・流木は、数十本オーダーでまとまって堆積している傾向が見られた。
- ・流木は、元の河道のみならず、周辺の田畑にも堆積していた。
- ・流木の堆積箇所の近傍では支溪流からの土砂流出や斜面の崩壊が見られ、流木の発生はこれらによって生じたと推定される。
- ・妙見川の最下流に位置する須川第一砂防堰堤では、堰堤の上流側に流木が大量に堆積しており、砂防堰堤が流木を捕捉したとみられる。

4. この分布図の利用について

分布図を転載される場合には、出典の明示をお願いします。この分布図は、予告なしに変更されることがあります。

問い合わせ先

国立研究開発法人土木研究所

土砂管理研究グループ 火山・土石流チーム

上席研究員 石井 靖雄

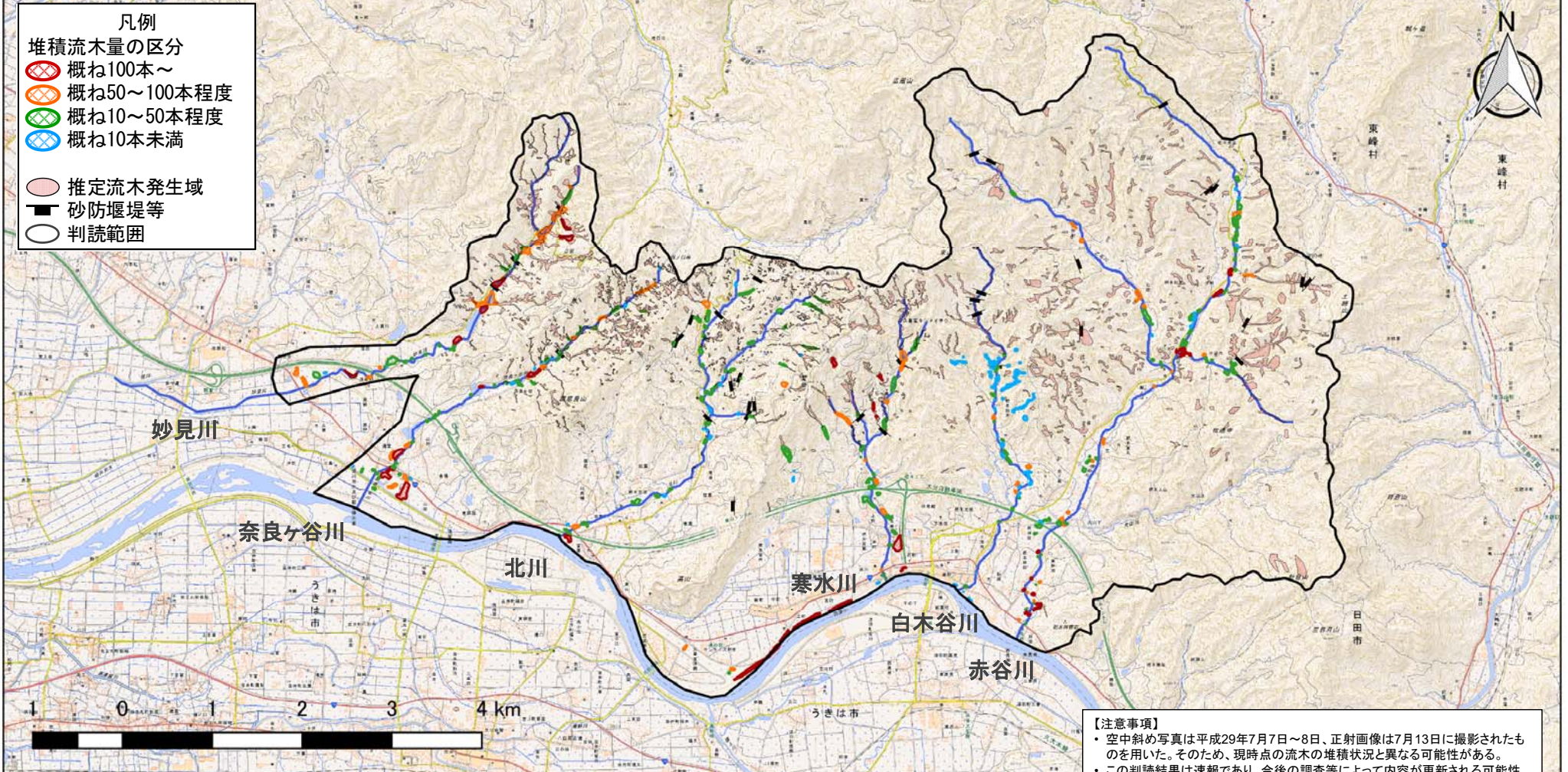
主任研究員 藤村 直樹

電話番号 029-879-6785

- この地図は、災害後に国土地理院および各航測会社が撮影した空中写真を用いて、流木の堆積範囲等の判読を行った結果を示したものである。
- 流木の堆積範囲は、流木量の概数に応じて4区分し、色分けして表示した。
- 推定流木発生域は、崩壊範囲のうち崩壊前に樹木が分布していたと推定される範囲を表示した。

平成29年7月25日

- 凡例
- 堆積流木量の区分
- 概ね100本～
 - 概ね50～100本程度
 - 概ね10～50本程度
 - 概ね10本未満
- 推定流木発生域
- 砂防堰堤等
- 判読範囲



- 【注意事項】
- 空中斜め写真は平成29年7月7日～8日、正射画像は7月13日に撮影されたものを用いた。そのため、現時点の流木の堆積状況と異なる可能性がある。
 - この判読結果は速報であり、今後の調査等によって内容が更新される可能性がある。
 - 砂防堰堤等の構造物は写真判読を行って抽出した。

- 【判読に活用した写真】
- <斜め写真>
- 国土地理院 7月7日および8日撮影
 - アジア航測株式会社 7月8日および9日撮影
 - 国際航業株式会社・株式会社バスコ 7月7日および9日撮影
 - 株式会社バスコ 7月7日撮影
- <正射画像>
- 国土地理院 7月13日撮影

堆積流木量の判読例



概ね10本未満



概ね10～50本程度



概ね50～100本程度



概ね100本～